

# 両立の苦勞 中国も

## 日中女性科学者が交流会

日本と中国の女性科学者・技術者が研究報告を通して交流する

「2010年日中女性科学者北京シンポジウム」(主催・日中協会、中国科学院)が9月20、21日、北京市の中国科学院生物物理研究所で開かれた。

日本と中国の女性科学者・技術者が研究報告を通して交流する。約3分の1から、07年には40%に上がった。若手の増加が目立ち、女性支援の法律や政策の整備も進んでいるという。日本では研究者に占める女性の割合は13%にとどまる。

基調講演では中国が「科学技術ロードマップの研究と革新2050」、日本が「科学技術の未来予測」について紹介。「環境・エネルギー」「生命科学」「情報科学」「経済・社会科学」の4分科会

同シンポジウムは92年、日中国交正常化20周年記念行事として始

方新・中国科学院副書記によると、中国の女性科学技術者は1400万人。科学技術者



熱心に資料を読む日中女性科学者シンポジウムの参加者

で意見交換した。

環境・エネルギー分科会では天然ゴムやバイオ水素、スペースアプリー(宇宙ごみ)などについて幅広く発表。気候変動を緩和するための国際協力の重要性を確認した。

生命科学分科会では、脳科学の成果など

を報告しあった後、女性科学者の地位についても議論した。中国の参加者からは「仕事だけでなく家庭でも良き妻、母、娘であることが求められている」という声が出た。情報科学分科会では中国側から「40代の発表者はみな教授職だが、所属機関の長になるのは難しい」と、昇進格差の現状も紹介された。経済・社会科学分科会では、日本の男女共同参画の取り組みが紹介され、女性研究者ネット

ワークの重要性が強調された。日本側の副代表を務めた小館香椎子(かたかきかづこ)科学技術振興機構男女共同参画主監は「中国は(98年の広州会議以来)大きく発展し、法整備を含め女性の登用が進んでいる。日本は大学進学の際の理科離れなどマイナス面が問題になっている。少子高齢化が進む中で女性研究者への期待が高まっている」と、科学技術政策の充実を期待を寄せた。

【青野由利、写真も】